

令和8年度 第一回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

日時：令和8年6月1日（月）

15:00～17:00

場所：国営海の中道海浜公園事務所

1階会議室

議事次第

1. 開会

2. 議題

（1）公園利用の状況について（報告）

（2）協議テーマについて

1）オールうみなかでの魅力的な飲食サービスの提供について

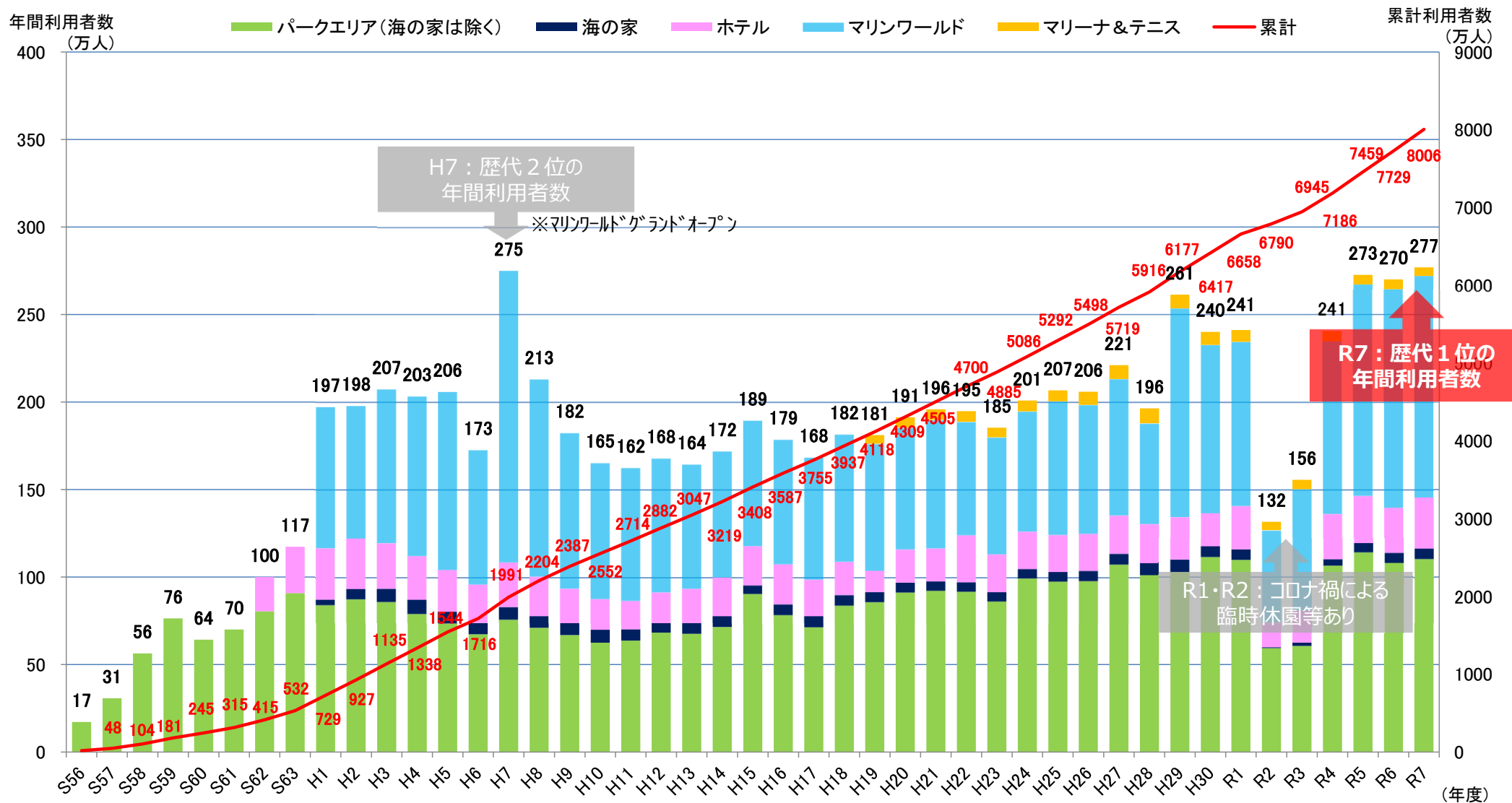
2）園内発生材の循環利用について

（3）各主体における将来像に向けた取組状況（報告）

3. 閉会

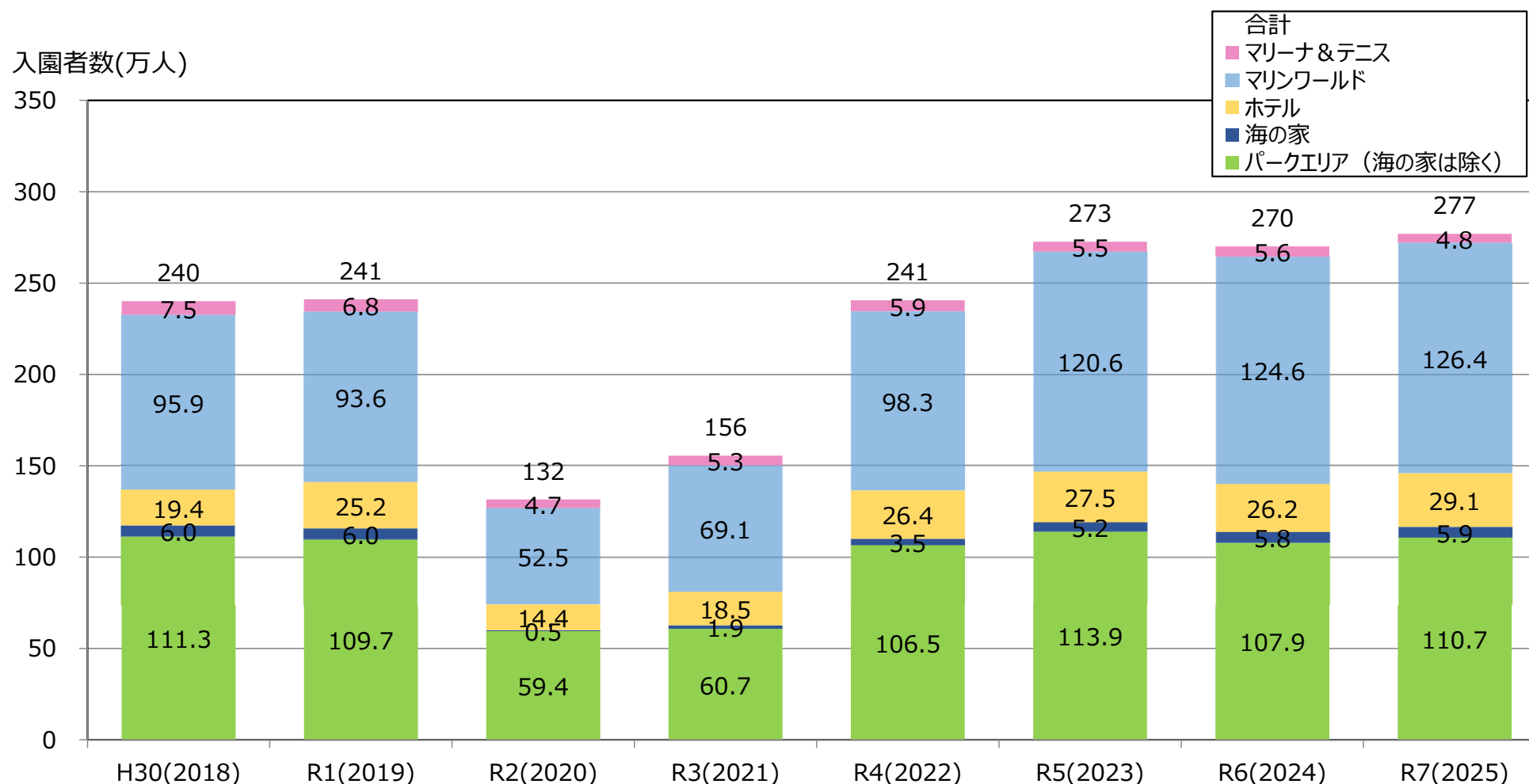
公園利用の状況について(報告)

○昭和56(1981)年度に開園以降、施設の充実等に伴って利用者数は増加し、令和7(2025)年度は公園全体で年間277万人(※歴代1位の年間利用者数)を記録し、累計では令和7年度末までに約8,000万人に利用されている。



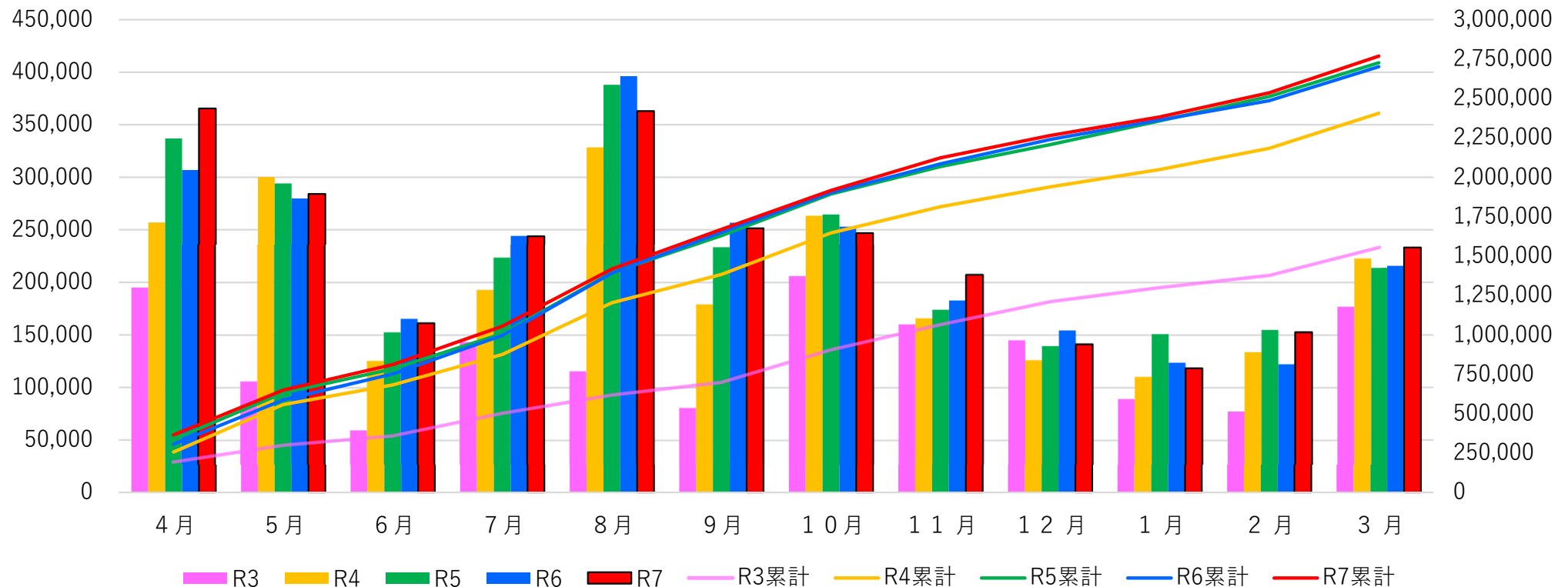
直近の年間利用者数(H30年度～R7年度)

- 平成30年度から令和元年度までは、年間利用者数240万人程度で推移していたが、令和2、3年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う閉園等により利用者数が大幅に減少。
- 令和4年度に利用者数はコロナ禍前の水準まで回復し、令和5、6年度は270万人程度の利用者数。
- 令和7年度は277万人を記録し、年間利用者数歴代1位を記録。

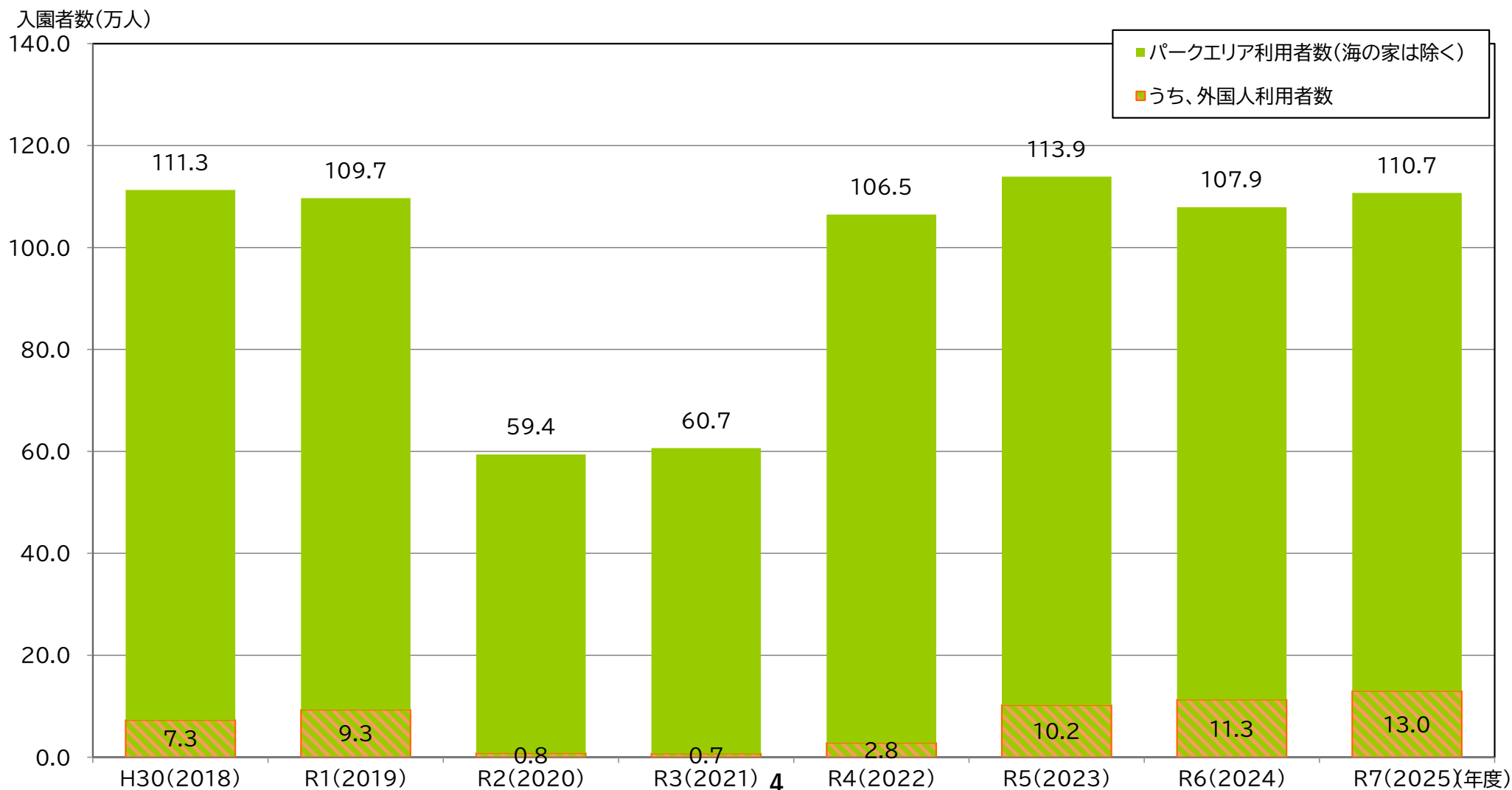


- 令和7年度については、4月、11月、3月で月別利用者数が歴代1位を記録した。
要因としては、良好な天候と魅力的な花修景(4月:ネモフィラ・サクラ、11月:コスモス・イチョウ、3月:ウメ・ナノハナ・ポピー)と考えられる。
- 8月は、サンシャインプールの利用が約半数(18.4万人)を占めているものの、お盆前の悪天候による臨時閉園や猛暑により、利用者数が少なかった。

海の中道海浜公園（公園全体） 月別利用者数



- パークエリアの外国人利用者数は、平成30年度から令和元年度までで7.3万人から9.3万人と増加していたが、コロナ禍により令和2～4年度は利用者数が大幅に減少。
- コロナ禍以降は、令和5年度10.2万人、令和6年度11.3万人とコロナ禍前の水準以上に増加し、令和7年度は外国人利用者数が歴代最多となった。
- 国・地域別では、近年は香港・韓国・台湾からの利用者が多い傾向である。



「食：オールうみなかでの 魅力的な飲食サービスの提供」について

1. 経緯

(1)令和7年11月 前回協議会の概要(振り返り)

- 来園者の声や園内機関からの意見を踏まえ、園内で共通して取り組む課題として「食」を協議テーマの一つとすることを確認。
- 当該協議テーマについては、「海の中道ならではの」や「手軽さ」を今後の方向性とし、オールうみなかとして一体的に取組を進めることを共有。
- 具体的な取組の実施に向け、飲食分野に関するプロジェクトチームを組成し、園内機関が連携しながら検討を進めることとなった。

(2)令和7年11月 前回協議会 での主な意見

- 有識者からは、主に以下の意見・助言が示された。

<令和7年第2回協議会での主なご意見（要約）>

- ✓ 来園者が入口で営業場所を把握できる仕組みとするとともに、話題性のあるコンテンツやイベントを設け、メディアに取り上げてもらう仕掛けも重要である。
- ✓ 海の中道ならではの「景色と食」を組み合わせた独自体験や、手軽に持ち運びしやすく、簡単に食べられることが重要である。また、若年層に人気のスイーツとのコラボ商品を提供し、SNSによる話題性を高めることも期待される。
- ✓ 福岡・志賀島の歴史や物語性を食やネーミングに結び付けることで、「ここでしか体験できない価値」を創出できる。
- ✓ 周辺地域と協力し、地域食材などを活かしたメニュー開発や試験販売を行い、公園ブランドとして定着させることが重要である。

1. 経緯

(3)プロジェクトチームによる検討

- 園内の全関係機関から選出されたメンバーによるプロジェクトチームが組成され、魅力的な飲食サービスの提供を進める「うみなかEAT(良いと)プロジェクト」が始動した。
- プロジェクトチームにおいて会議を全4回開催し、プロジェクトの具体化について検討を重ねた。

【検討経緯】

回次・開催日	主な内容
<12月12日> 第1回会議	・ プロジェクトの<u>目的・方向性を共有</u> ・ 「海の中道らしさ」「手軽さ」を備えた<u>新たな飲食メニューを、フラワーピクニック期間中に提供する方針を確認</u>
<1月9日> 第2回会議	・ <u>園内店舗の現地調査を実施</u> ・ 複数のメニュー案を比較検討し、オペレーション負荷が比較的低く、視覚的な訴求力の高い<u>スイーツメニューを軸に検討を進める方向性を確認</u>
<1月20日> 第3回会議	・ <u>メニュー内容、販売方法、提供体制について具体的に検討</u> ・ 園内複数拠点での販売を想定し、品質の統一、仕入れ方法、ネーミング、広報手法等を整理
<2月19日> 第4回会議	・ 提供する商品仕様を最終決定 ・ <u>商品名、販売期間、販売場所、価格、広報手法を確定し、フラワーピクニック期間中の実施体制を整理</u>

2.うみなかEATプロジェクトの概要

(1)目的

- “オールうみなか”による飲食サービスの提供
- 海の中道ならではの景観・季節感と連動したメニューの創出
- 来園者満足度の向上

(2)提供メニュー

- 商品名:「うみなかボウル」
- 特徴:
 - ✓ 若年層に人気のあるアサイーボウルをベースとしたスイーツ
 - ✓ 海や花景観をイメージした見映えのするビジュアル
 - ✓ 持ち運びしやすく、園内各所で楽しめる仕様(カップ式)
 - ✓ 各機関が連携して提供する統一メニュー

(3)販売期間

- フラワーピクニック期間中限定: 令和8年3月20日～5月17日

(4)販売価格・提供方法

- 全店舗一律 1,500円(税込)

(5)運営体制

- 仕入れ: 各機関分担(一部の素材はまとめて調達)
- 管理 : 各販売場所において素材を冷凍・冷蔵保管
- 調理 : 各販売場所で調理(調理方法はレクチャー動画で共有)



【うみなかボウル】



【うみなかボウルの素材】

(6)広報・プロモーション

- プレスリリースの実施(令和8年3月16日付・記者投げ込み)
- 各機関によるSNSおよび公式ホームページでの情報発信
- テレビ放送を含むメディアからの取材対応
- 園内ポスター掲示による来園者向け広報
- 「うみなかEATプロジェクト」ロゴの作成



【ロゴの作成】

海の中道海浜公園 PRESS RELEASE 2026年3月16日

～うみなかの「食」の魅力向上を目指した新プロジェクト始動～
海の中道で春の新メニューが誕生！

うみなかの「食」の魅力の充実のために園内から集められたメンバーによる「うみなかEATプロジェクト」が始動しました。
プロジェクト第一弾商品として、アサイーボウル「うみなかボウル」が誕生、この春期間限定で販売いたします。うみなかの海をイメージしたブルーのヨーグルトがなだりポイントです。春のお花や海、マリニワールドの生き物たちを眺めながら、ご家族やカップル、お友達とともにもぜひご賞味ください。



【商品名】うみなかボウル
【販売価格】1,500円(税込)
【販売期間】3月20日(金・祝)～5月17日(日)
※数量限定、売り切れとなれば時点で販売終了
【販売場所】海の中道海浜公園(ワンダーシャトル、PlayCafe、INN THE PARK カフェ・レストラン)
マリニワールド海の中道(LF レストランReilly)

～うみなかEATプロジェクトとは～
海の中道海浜公園における「食」の魅力の充実に向け、園内の関係機関から集められたメンバーで議論し、オールうみなかで魅力的な飲食サービスを提供することを目的としたプロジェクトです。「EAT」と「良い」とを掛け合わせた名称です。

■お問い合わせ先
【商品、販売について】
海の中道管理センター 企画課広報係 山下、山本 TEL:092-603-1300(広聴専用)、092-603-1111(代表)
【うみなかEATプロジェクトについて】
うみなかEATプロジェクト事務局 海の中道海浜公園事務所 調査設計課 小宮 TEL:092-603-1113

【プレスリリース】

marineworld.uminaka
マリニワールド海の中道

うみなかボウル
思わず写真を撮りたくなっちゃう
海の中道の「期間限定」アサイーボウル



ショップを見る

【各機関によるSNSおよび公式HPへの掲載】

海の中道海浜公園

ニュース

海の中道で春の新メニューが誕生！

うみなかの「食」の魅力の充実のために園内から集められたメンバーによる「うみなかEATプロジェクト」が始動しました。プロジェクト第一弾商品として、アサイーボウル「うみなかボウル」が誕生、この春期間限定で販売いたします。うみなかの海をイメージしたブルーのヨーグルトがなだりポイントです。春のお花や海、マリニワールドの生き物たちを眺めながら、ご家族やカップル、お友達とともにもぜひご賞味ください。



【商品名】うみなかボウル
【販売価格】1,500円(税込)
【販売期間】3月20日(金・祝)～5月17日(日)
※数量限定、売り切れとなれば時点で販売終了
【販売場所】海の中道海浜公園(ワンダーシャトル、PlayCafe、INN THE PARK カフェ・レストラン)
マリニワールド海の中道(LF レストランReilly)

“うみなか”の新グルメ誕生！
「うみなかボウル」
Uminaka Bowl

Delicious!



うみなかボウル Uminaka Bowl
うみなかの海をイメージしたブルーのヨーグルトの上に、アサイーのアイス、新鮮なフルーツ、かわいく可愛さをそそぐお花をのせています。
Blue yogurt. To match the sea near Uminaka, topped with soft ice cream, fresh fruit, cute flowers, and more to create a gossamer-thin treat.

【商品名】うみなかボウル
【販売価格】1,500円(税込)
【販売期間】3月20日(金・祝)～5月17日(日)
※数量限定、売り切れとなれば時点で販売終了
【販売場所】海の中道海浜公園(ワンダーシャトル、PlayCafe、INN THE PARK カフェ・レストラン)
マリニワールド海の中道(LF レストランReilly)

【園内ポスター掲示】

(7)販売場所 ① PLAYCAFÉ ②ワンダーシャトル ③マリンワールド(Reilly) ④光と風レストラン



園内4箇所で販売を実施



3. 取組結果

(1)販売数量

○ 合計販売数量:400個

(2)利用者の声

<把握方法>

①うみなかボウル購入者アンケート調査

- ・対象:うみなかボウル購入者(購入者へQRコードを配布)
- ・概要:うみなかボウルの満足度(味・見た目・価格等)や、認知のきっかけ等を把握
- ・期間:4月11日(土)～5月17日(日)

②飲食に関するアンケート調査

- ・対象:来園者(園内主要箇所での対面調査)
- ・概要:公園内の飲食全体に関する調査の中で、うみなかボウルの認知度等を把握
- ・期間:5月6日(水・祝)

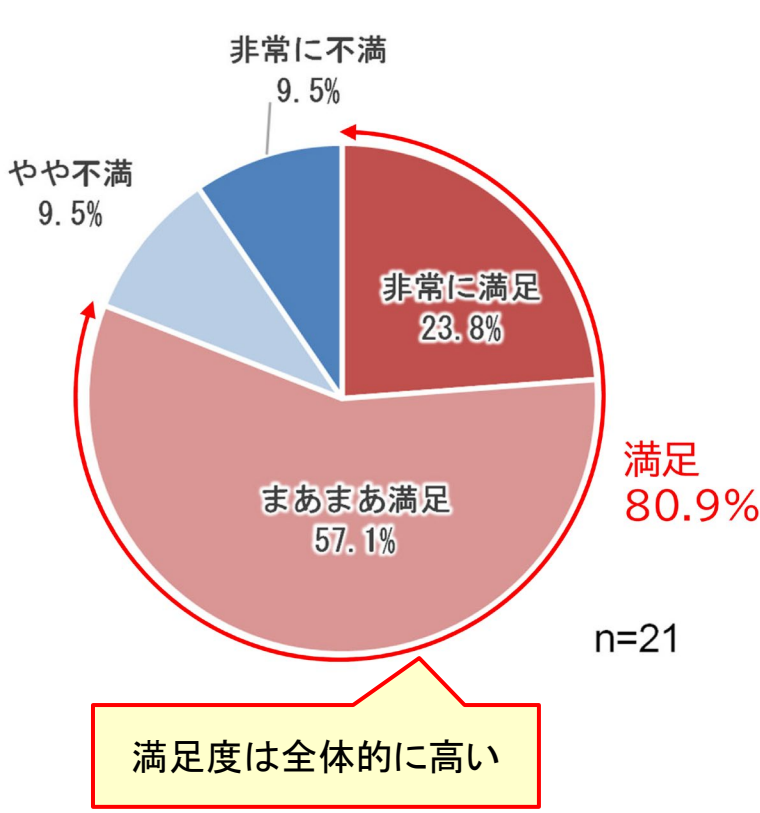
③公園のサービスに関するアンケート調査

- ・対象:来園者(園内主要箇所での対面調査)
- ・概要:公園全体のサービス(例:レストランの内容等)に対する満足度を把握
- ・期間:4月24日(金)、4月29日(水・祝)

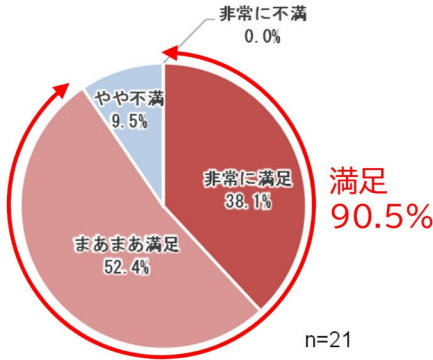
3. 取組結果

<①うみなかボウル購入者アンケート調査結果>

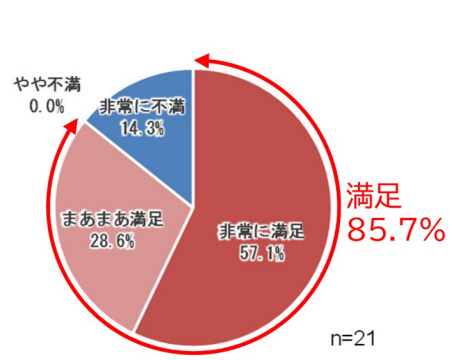
■総合的な満足度



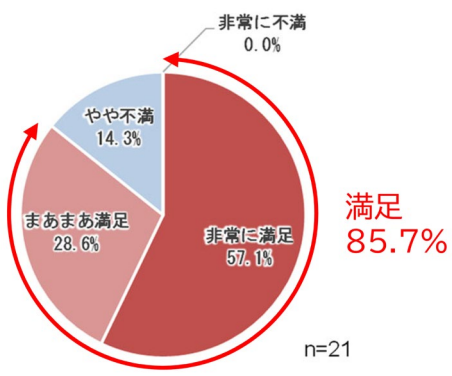
■美味しさの満足度



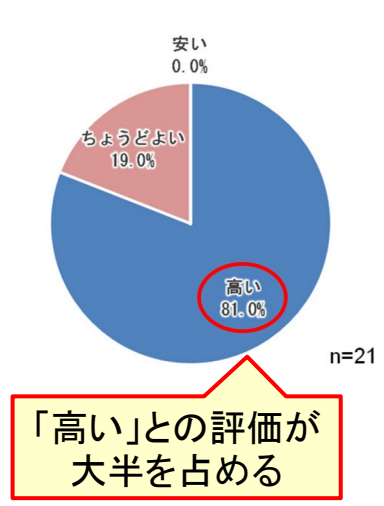
■ボリュームの満足度



■見映えの満足度

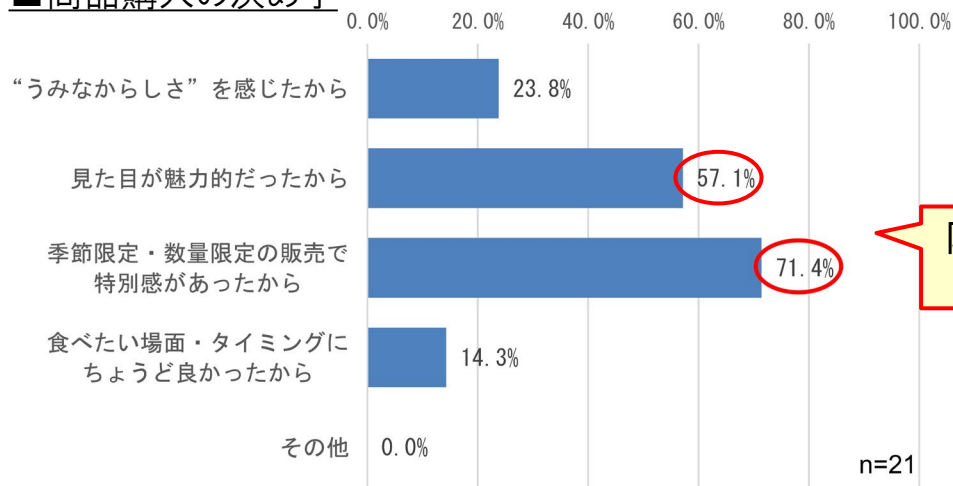


■価格に対する評価



3. 取組結果

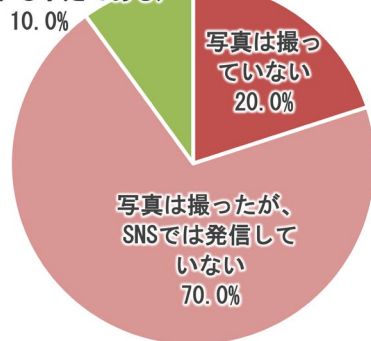
■商品購入の決め手



限定感や見た目の魅力が
大きい要因となっている

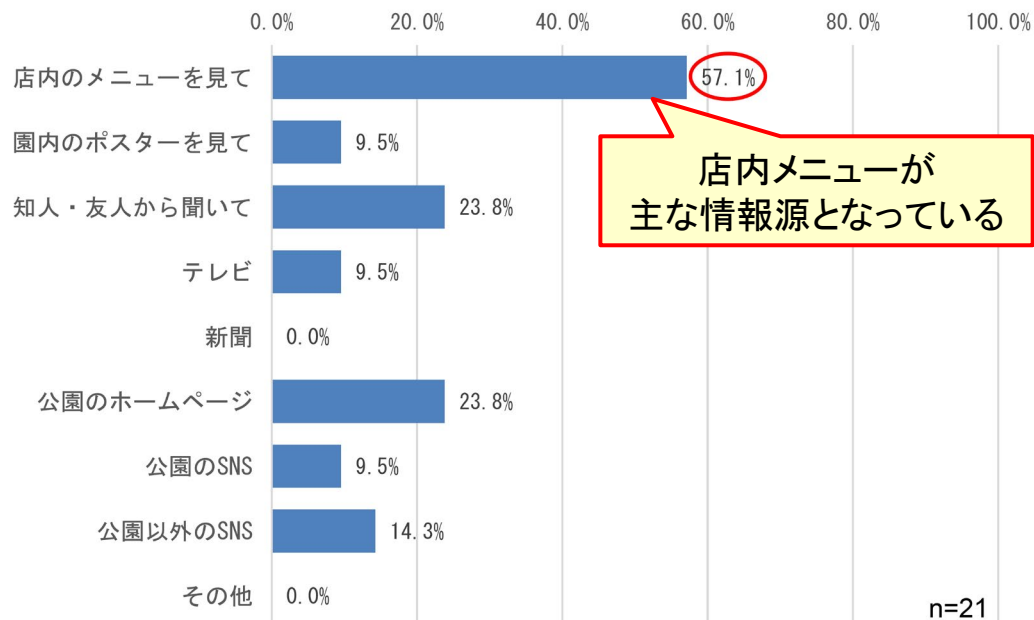
■SNS発信の有無

写真を撮り、SNSで発信した（発信する予定である）



写真撮影は行われているものの、
その大半はSNS発信に至っていない

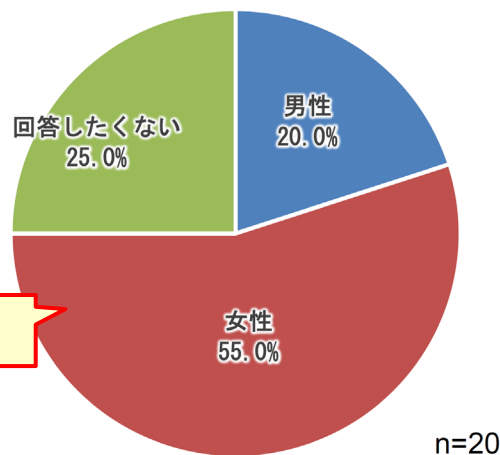
■うみなかボウルを知った場所



店内メニューが
主な情報源となっている

3. 取組結果

■ 性別

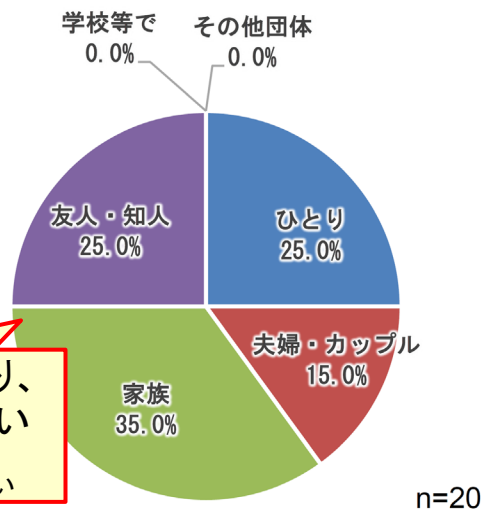


女性割合が高い

参考: 公園全体
(※R8年度春
利用実態調査より)



■ 同伴者



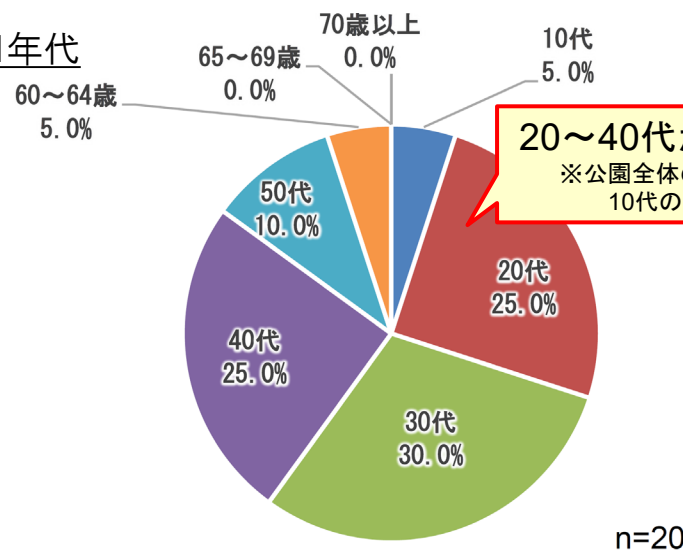
家族連れが最多であり、
単独や友人同伴も多い

※公園全体の傾向と異なり、
単独や友人同伴等の割合が高い

参考: 公園全体
(※R8年度春
利用実態調査より)



■ 年代



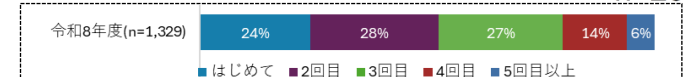
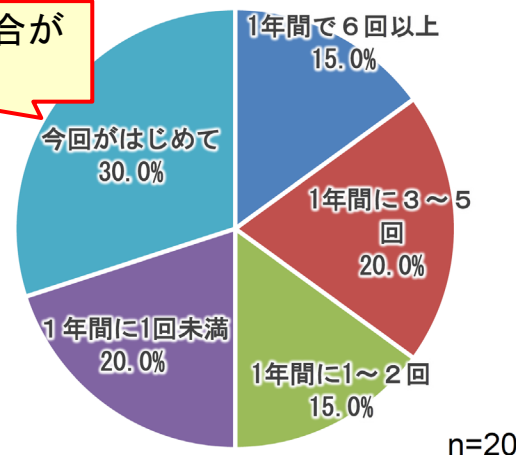
20~40代が中心である

※公園全体の傾向と異なり、
10代の割合が低い



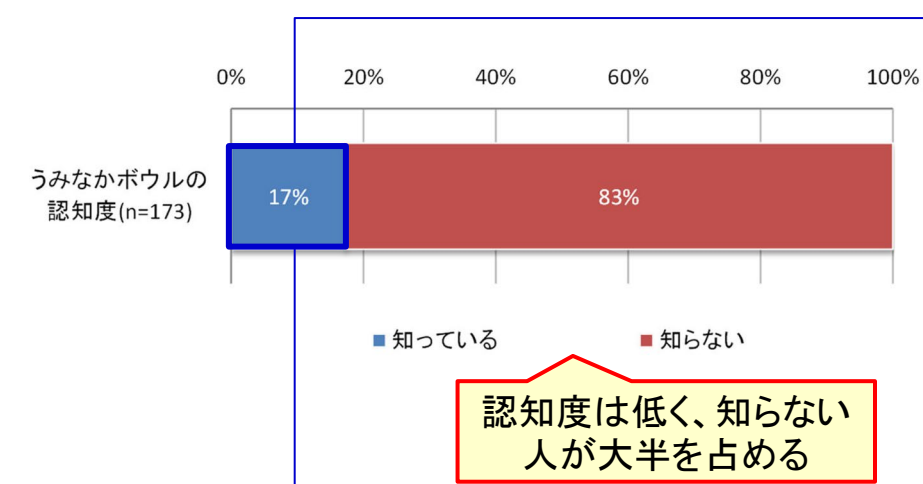
■ 来園頻度

初来園者の割合が
最も高い

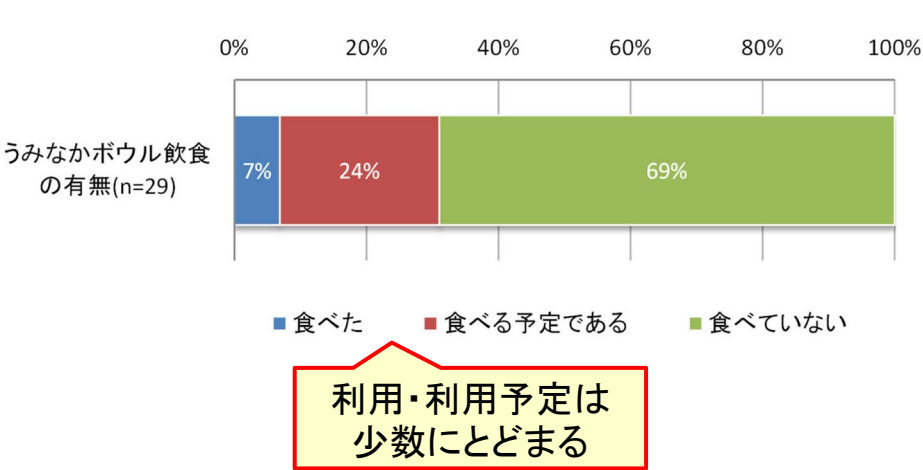


<②飲食に関するアンケート調査結果>

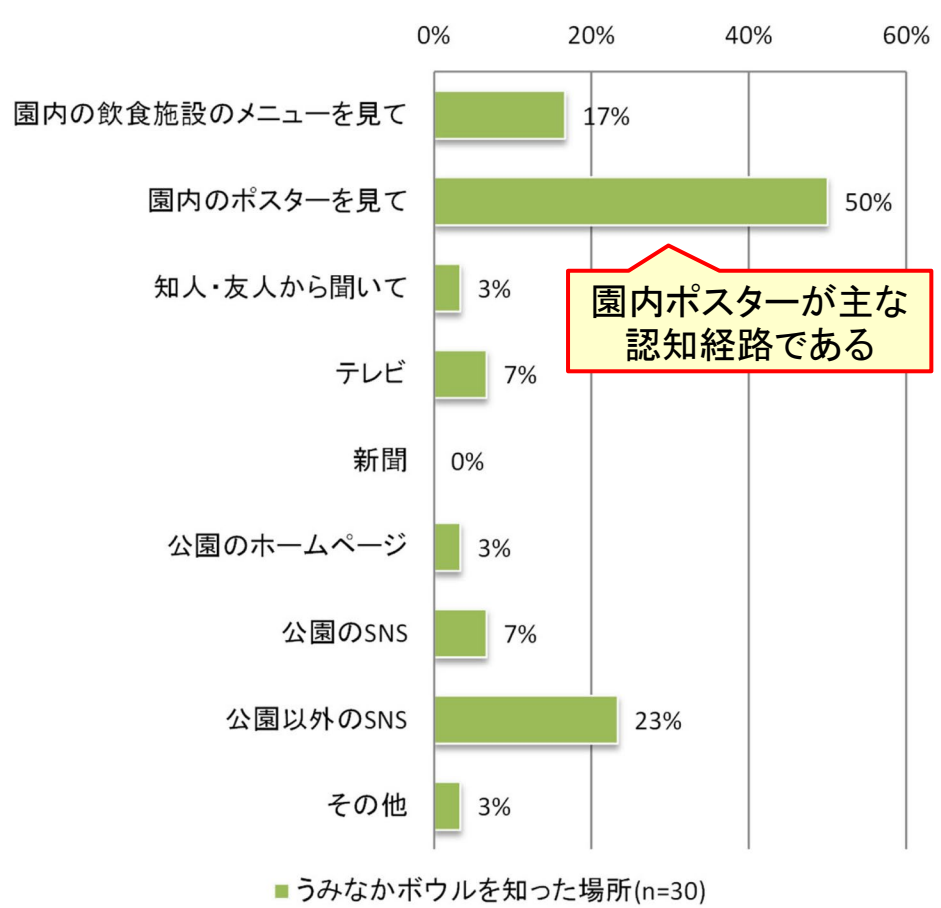
■うみなかボウルの認知度



■うみなかボウル飲食の有無



■うみなかボウルを知った場所

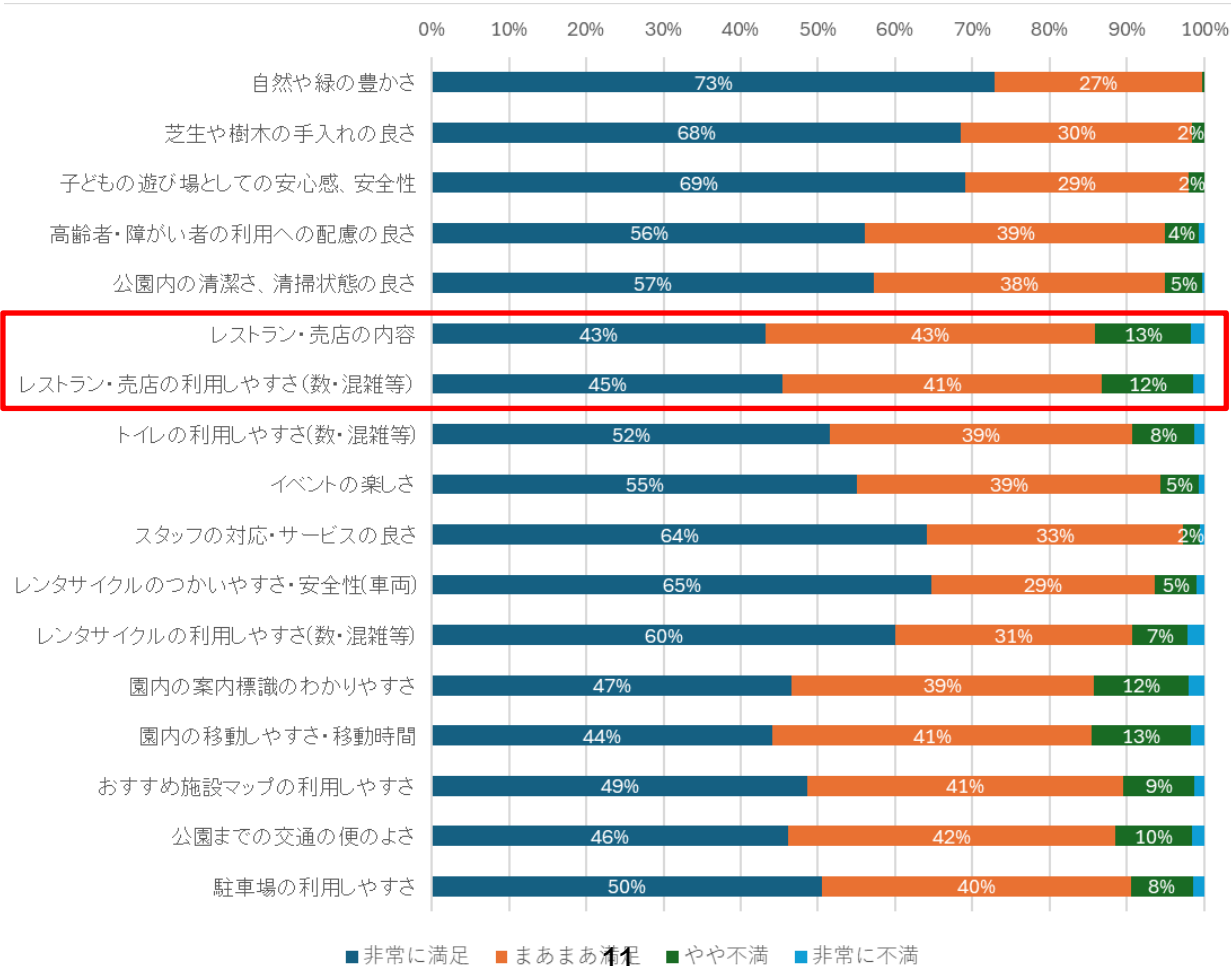


＜③公園のサービスに関するアンケート調査＞

※令和7年度第2回協議会資料(資料2)より抜粋

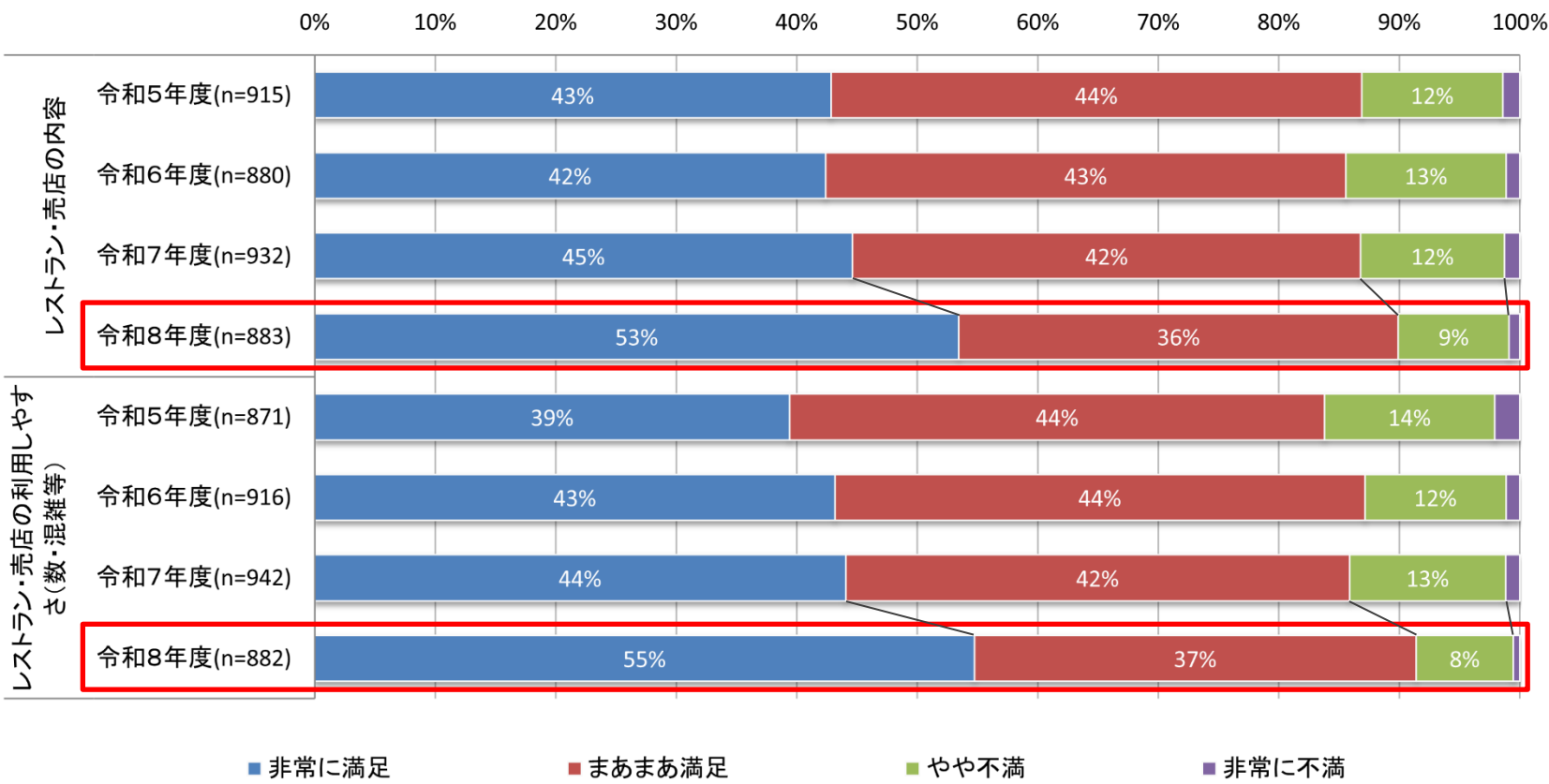
○ 令和6年度の利用実態調査によると、パークエリアにおけるレストランや売店については、他のサービスと比べて、「非常に満足」と回答した人の割合が低く、「やや不満」や「非常に不満」と答えた人の割合が高い。

■ 公園のサービスに対する満足度(令和6年度)



○ 令和8年度の利用実態調査(春季)によると、レストラン・売店の内容や利用しやすさについては、「非常に満足」が増加し、「やや不満」及び「非常に不満」が減少しており、全体として満足度が高まっている。

■レストラン・売店に対する満足度(令和5～8年度:春季)



4.課題及び今後の予定

(1)振り返り(各機関からの意見等を踏まえた整理)

	評価点	課題点
①商品・品質	・味・ボリューム等の満足度は概ね高評価（満足度8割以上） ・見栄えの良い商品により注文が連続する傾向が確認された	・店舗・スタッフ間で盛付けや見た目にばらつきが発生 ・定期的な品質チェック不足により、レシピ・見た目が当初想定から逸脱 ・食材（果実）の品質維持が難しいとの指摘
②価格・価値	・特別感（季節限定・数量限定）が価値として評価された	・価格が高いと感じる利用者が多数（約8割） ・価格とボリュームのバランスへの不満 ・価格設定が販売数に影響している可能性
③提供体制	・各機関が協力し、案を出し合いながら販売期間終了まで提供を継続 ・連携により初の全体的取組が実現	・作業スペース制約により終日提供が困難 ・提供時間制約により来園者ピークを取り逃し ・次期提供に向けた繁忙期との両立や準備期間確保の難しさ
④仕入・在庫	・ルイガンズ主導により一部食材（アサイー、食用花等）の調達を円滑化 ・機関間での食材調達・連携が実現	・仕入れロットと販売数のギャップによるロス発生 ・在庫が余剰となるケースが発生 ・請求・仕入れ対応に係る機関双方の負担
⑤広報	・SNSで閲覧数増、知名度向上 ・現地掲示により問い合わせ・話題性創出	・事前認知が弱く店内来訪後に初認知となる場合多い ・テーブル単位等の接触機会での訴求不足

4.課題及び今後の予定

(2)今後の予定

○ 今後、下記の方方向性で検討予定。

- 実施方針： EATプロジェクトは継続実施し、内容は今回の課題等を踏まえ、調整する
- 実施時期： 夏季を避け、秋頃を軸に検討(ただし、各機関の繁忙期・準備期間を考慮)
- 連携の方方向性： 販売は園内機関を主体としつつも、地元事業者等と食材提供・PRで連携可能性を検討
- 主な検討内容： 価格・商品構成(加工品の可能性含む)、仕入れ方法、品質確認、広報手法 等

- 今回実施した「うみなかEATプロジェクト」の取組内容及び結果を踏まえ、今後の「食」に関する取組に向けた意見をいただきたい。



「循環：園内発生材の循環利用」について

- 近年、SDGsの推進や循環型社会の実現に向け、資源の有効活用や環境負荷低減に配慮した管理運営が求められている。
- 本公園においては、広大な園内を維持管理する過程で、様々な園内発生材が継続的に発生している。
- 園内機関からは、こうした園内発生材の取扱いについて、日常の管理運営の中で感じている課題が示されている。

＜園内機関からの声＞

- ✓ SDGsや環境共生への貢献が求められている。
- ✓ 園内の各事業で様々な再生利用可能な資材が発生しているが、園内で循環利用する仕組みは不十分。
（例：植物発生材（間伐材・刈草等）、動物性廃棄物（羊毛、ふん尿等）、食品ロス、海岸漂着物等）
- ✓ 園内発生材の処分費用の負担を軽減することも課題。

- 協議テーマ「循環：園内発生材の循環利用」を議論するにあたっては、社会動向を踏まえつつ、園内発生材の発生状況や利活用状況を把握し、現状と課題を整理した上で、今後の方向性について検討することが必要。

<参考：循環に関する社会動向（関連する計画等）>

①第6次社会資本整備重点計画（令和8年1月 閣議決定）

第6次社会資本整備重点計画の概要



取り巻く社会経済情勢の変化		≪時代の重大な岐路に立つ、我が国の社会経済情勢≫				
人口減少等が もたらす地域の危機	インフラ老朽化の 更なる進行	災害の 激甚化・頻発化	成長型経済への 転換期にある経済	地球環境を巡る 世界的な潮流	デジタル・新技術の 急速な進歩	暮らし・働き方や ニーズの多様化
重点目標と目指す社会の姿		≪目指す姿を掲げ、そこからバックキャストして社会資本整備のビジョンを構想≫				
○我が国が直面する先送りできない社会課題に真正面から向き合い、時代の要請に応えながら危機を好機に変え、未来を切り拓くインフラ政策を構築 ⇒社会経済情勢を踏まえ、インフラ政策の「羅針盤」として、4つの重点目標を掲げ、それぞれ目指す姿と、実現に向けた進路を示す						
○インフラマネジメントをインフラ政策の核心に据え、国民の共有財産であるインフラを、社会経済のニーズに合わせて効果的に活用し、価値を創出						

人口減少という危機を好機に変え、一人ひとりが豊かさや安心を実感できる持続可能な活力ある経済・社会を実現

重点目標Ⅰ 活力のある持続可能な地域社会の形成		重点目標Ⅱ 強靱な国土が支える持続的で力強い経済社会	重点目標Ⅲ インフラ分野が先導するグリーン社会の実現
【目指す姿】 地域経済の核となる集積づくりと広域連携 - まちづくり・交通と一体のもとで持続可能な都市構造に転換（日常の行動圏内で生活関連サービスが享受できる地域の形成） - 地域資源を活用した「稼ぐ力」の創出と、広域ネットワークによる地域の経済圏の拡大 地域の将来像を踏まえたインフラの再構築 - 埼玉県八潮市の道路陥没事故の教訓を踏まえた老朽化対策の徹底 - 人口減少に対応し、まちづくりと一体で良質なストックを形成 包摂的な共生社会に向けた地域づくりと豊かで快適な生活環境 - バリアフリー・ジェンダー主流化の推進、安全な移動空間の形成 - インフラ空間を活用した豊かで過ごしやすい環境形成		【目指す姿】 持続的で力強い経済成長の実現 - 生産性向上を支える人流・物流ネットワーク整備 - 地域の産業立地に対応した周辺インフラの整備 - 革新的なイノベーションの社会実装の促進（自動運転サービスの実現、自動物流道路等） 暮らしと経済の礎となる防災・減災、国土強靱化 - 能登半島地震をはじめ大規模災害等で得られた教訓も踏まえ、ハード・ソフト一体となった「事前防災」の推進 - あらゆる関係者の総力を結集した平時からの備えの強化（TEC-FORCE等の体制・機能の拡充、防災拠点の強化）	【目指す姿】 2050年カーボンニュートラルの実現 - インフラ空間を活用した再生可能エネルギーの拡大 - 脱炭素化を支える基盤の整備 自然共生社会の実現 - 河川空間等におけるグリーンインフラの形成推進 - ネイチャーポジティブの実現 資源循環型の経済社会システムの構築 - 建設リサイクルの高度化 - 産業副産物等を利用したブルーインフラの整備 - 下水汚泥の肥料利用の推進
重点目標Ⅳ 戦略的・計画的な社会資本整備を支える基盤の強化			
【目指す姿】 地域のインフラを支える地方公共団体の管理機能の維持 広域・複数・多分野のインフラ管理の推進（地域インフラ群再生戦略マネジメント）		建設業等の担い手の確保・育成、生産性向上 - 第三次・担い手3法を踏まえた処遇改善、働き方改革の推進 - i-Construction2.0等を通じた現場の生産性の向上	新技術・DXによるインフラの価値向上 - データ連携やAIを活用したインフラDX - オープンデータによる建築・都市のDX

インフラマネジメントを通じて社会資本ストックの質的改善と高度化を推進

ハード・ソフトの活用	他分野連携	官民連携	地域住民の参画	イノベーション創出
インフラ整備×新技術	道の駅の防災拠点化 流域総合水管理の推進	産官学金労官など 多様な主体の連携強化	住民参加型 インフラメンテナンス	AI、新技術の導入

戦略的・計画的な社会資本整備を支える安定的・持続的な公共投資

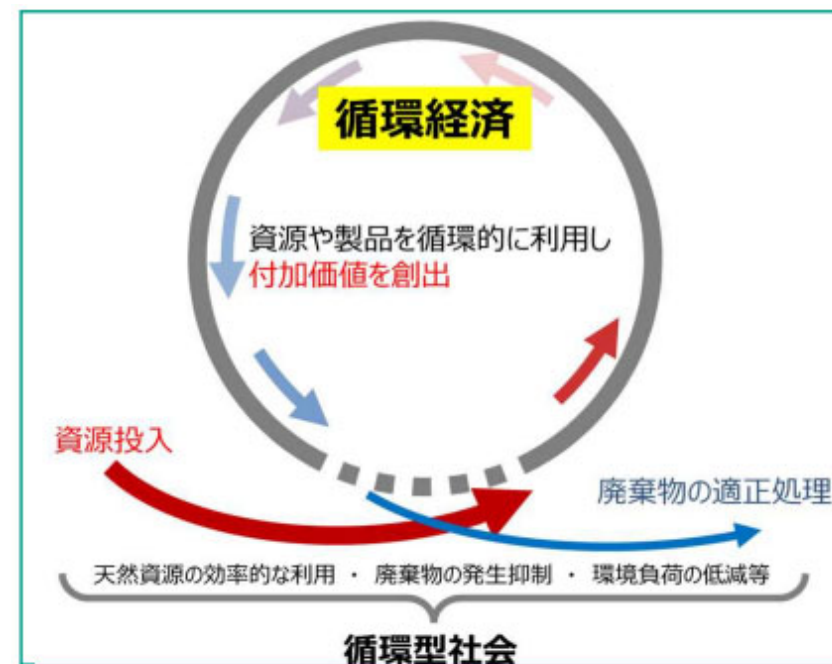
「国民共有の貴重な資産」であるインフラを支える、国民一人ひとりの理解の醸成

②第五次循環型社会形成推進基本計画 (令和6年8月 閣議決定)

- 循環型社会形成推進基本法に基づき、循環経済への移行を国家戦略として位置づけ、製品・資材のライフサイクル全体を通じた資源循環を推進する政府全体の計画。
- 環境負荷の低減と併せて、産業競争力強化や地方創生等の社会的課題の同時解決を基本的な方向性としている。

③国土交通省環境行動計画(令和7年6月改定)

- 政府全体の環境・循環政策を踏まえ、国土交通行政として循環経済への移行を加速するための行動計画。
- 社会資本の整備・維持管理・更新の各段階において、循環資源の利用拡大、長寿命化による発生抑制等を通じ、公共施設・インフラ分野における資源循環の実装を推進する。



循環型社会のドライビングフォースである循環経済



出典：第五次循環型社会形成推進基本計画(令和6年8月)

- 園内発生材の実態把握を目的に、園内各機関に対し、発生材の種類、発生状況および現在の取扱い等について、アンケート調査を実施した。

【循環利用アンケート項目】

Q1. 発生の有無	分類毎の発生の有無
Q2. 発生材の種類	発生している場合の具体的な発生材の内容
Q3. 発生量・発生時期	発生する時期・頻度および概ねの量感
Q4. 現在の対応	活用（循環利用）または処分の状況
Q5. 課題	現在の対応における課題について （①課題の内容、②原因、③考えられる対策、④期待される効果）
Q6. 将来的な可能性	園内連携や仕組みづくりを前提に、 条件が整えば考えられる循環利用の可能性

- 本公園では、植物由来・動物由来・食品系・海岸漂着物の4分類に大別される多様な園内発生材が、園内各所において継続的に発生している状況。

<園内発生材の大別>

植物由来

: 伐採木、剪定枝、落ち葉(松葉含む)、刈草 等

動物由来

: 羊毛、羽、糞、飼料の残り 等

食品系

: 調理くず、食べ残し、廃油 等

海岸漂着物

: プラごみ、流木、缶・ビン、砂 等

(1) 植物由来

管理センター

マリンワールド

マリーナ&テニス

パークツーリズム

国事務所

■特徴

- 自然豊かな緑地を広く有する公園であり、芝草、剪定枝、伐採木、松葉、除草屑等の植物由来発生材が園内各所で継続的に発生している。
- 緑地管理を担う複数の園内機関において、日常的な管理作業に伴い植物由来発生材が生じている。

■発生量・時期

- 芝草や剪定枝等は発生量が多く、園内における主要な発生材となっている。
- 植物の生育状況や管理内容に応じて、発生量や時期に一定のばらつきがみられる。



【マツ材(管理センター)】



【刈草(マリンワールド)】

■現在の対応

- 管理センターでは、堆肥化、チップ材、工作体験利用、松葉炭づくりとしての利用等により園内での活用が行われている。
- 一方で、回収後に処分している機関も多く、対応状況には差がみられる。

■課題

- 発生量に対して活用先が限定的であり、十分に活用しきれていない状況がみられる。
- 管理や処分に係る人手・労力・コストの負担が、各園内機関の業務として発生している。



【堆肥化(管理センター)】



【松葉炭作り(管理センター)】

(2) 動物由来

管理センター

マリンワールド

パークツーリズム

■特徴

- 動物飼育を行っている一部施設において、羊毛、羽、糞、飼料残渣等が発生している。
- 発生源や種類が比較的明確であり、管理センター(:動物の森)、マリンワールド(:水族館)、パーク・ツーリズム(:乗馬)に発生が限られている。

■発生量・時期

- 羊毛は毛刈り時期(4~9月)に、羽は換羽期を中心に断続的に発生している。
- 糞や飼料残渣は飼育期間中、通年で日常的に発生している。



【羊毛(管理センター)】



【飼料残渣(マリンワールド)】

■現在の対応

- 管理センターでは、羊毛や羽を工作体験等に活用し、糞・残餌は植物由来発生材と混合して堆肥化している。
- 活用できない分については、可燃ごみ等として適正に処分している。

■課題

- 堆積場所から処理場所までの運搬作業に人手と労力を要している。
- 堆肥としての受入量や活用先に限りがあり、また、コストも発生することから、継続的な運用体制が課題となっている。

made in UMINAKA
カピバラ
ようろう
羊毛マスコットづくり

ご参加費
500円

うみなかで
暮らす
羊さんの毛から
つくります

時間
① 10:00～
② 11:30～
③ 13:00～
④ 14:30～
所要時間：約1時間

定員
各回10名(先着)



【クラフトアート体験(管理センター)】



【馬糞と植物を混合しての堆肥化(パークツーリズム)】

(3) 食品系

管理センター

マリンワールド

ルイガンズ

海の家

パークツーリズム

■特徴

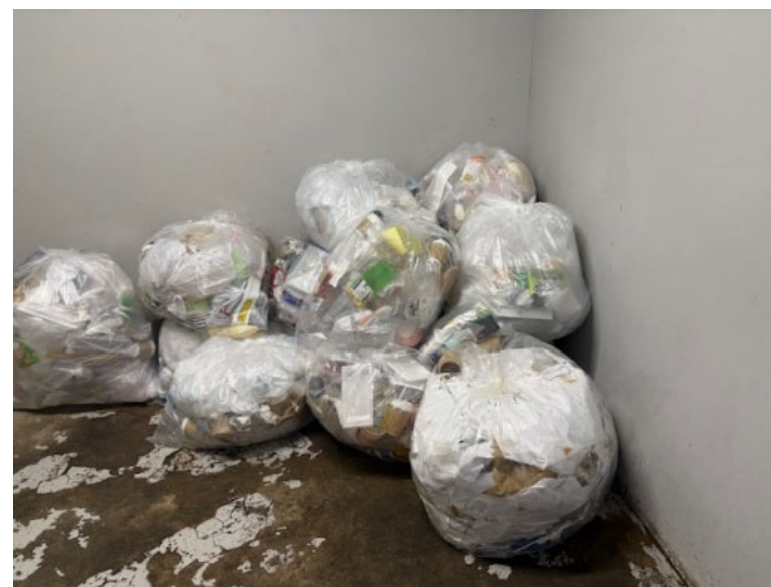
- 飲食施設や宿泊施設を中心に、調理くず、食べ残し、廃油等が発生している。
- 施設規模や営業形態により、発生量や対応状況に差がみられる。

■発生量・時期

- 多くの施設で通年発生しており、繁忙期や土日祝日に発生量が増加する傾向がある。
- 施設によっては、月ごとのばらつきが大きい。



【生ゴミ(管理センター)】



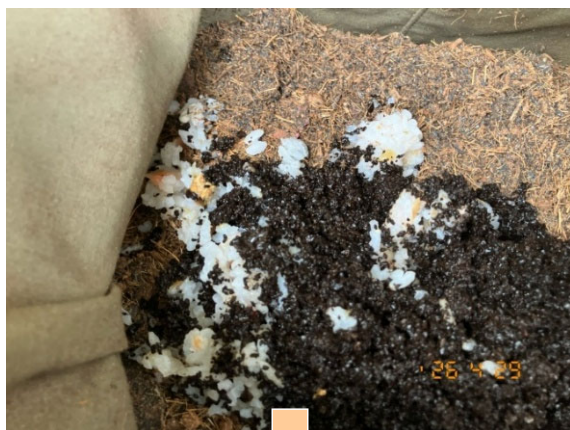
【調理くず等(マリンワールド)】

■現在の対応

- 多くの施設では一般廃棄物として処分しており、管理センターでは一部でコンポスト処理を行っている。
- 廃油については、専門業者による回収・再資源化が行われている。

■課題

- 処理や管理に専門的な知識を要し、衛生管理面での負担が大きい。
- 各施設での個別対応となっており、対応の拡大が難しい状況にある。



【コンポストによる堆肥化(管理センター)】



※専門業者に引き取ってもらい、バイオディーゼル燃料に活用

【食用油の再利用(管理センター)】

(4) 海岸漂着物

管理センター

マリンワールド

マリーナ & テニス

海の家

パークツーリズム

■ 特徴

- 台風やしけ等の自然現象により、流木、プラスチックごみ、砂等が発生している。
- 海に囲まれた公園という立地特性により、多くの施設で継続的な発生が確認されている。

■ 発生量・時期

- 通年で一定量が漂着するが、荒天後に大量発生する傾向がある。
- 自然現象の影響を強く受けるため、発生量や時期にばらつきがある。



【漂着ゴミ(管理センター)】



【流木(パークツーリズム)】

■現在の対応

- 自治体やボランティアと連携して回収を行い、一部は展示や学習用途、燃料に活用している。
- 多くは回収後に処分対応している。

■課題

- 大型流木や砂の回収・処理に多くの人手や費用を要している。
- 自然現象由来であるため、発生抑制が困難である。



【ボランティア活動(管理センター)】



【リサイクルアート(海の家)】



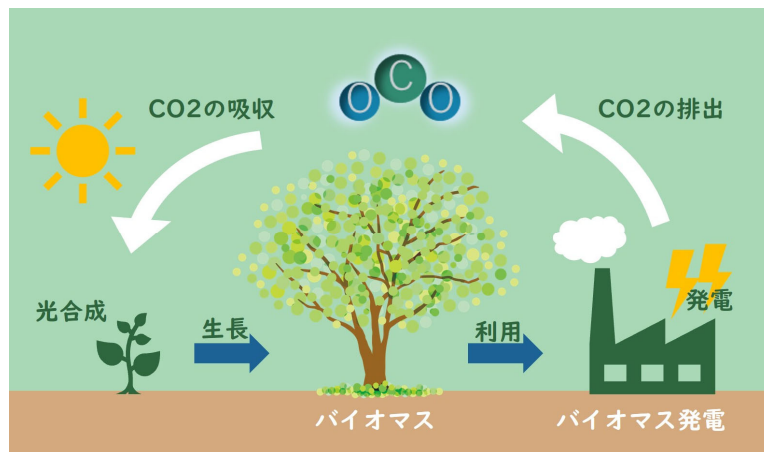
【流木を利用した焚き木(パークツーリズム)】

3. 園内発生材のその他の活用可能性

<例: 植物由来の園内発生材>

① バイオマス発電【エネルギー利用】

木質残材等のバイオマスを燃料に利用し、燃焼で得たエネルギーを電気に供給する発電方式



出典: 国立研究開発法人 国立環境研究所

③ 植物由来成分を活用した製品【製品化】

樹木や草花等の植物を原料に、抽出された精油等を活用したアロマ製品等



出典: 一般社団法人 緑の機能性研究所サイト

② バイオ炭【資材化】

剪定枝や間伐材を原料に炭化処理で生産され、土壌改良や炭素貯留に活用される資材



出典: 日比谷アメニスWEBサイト

- 現在、園内では多様な発生材が継続的に発生していることから、今後、課題で挙げられていたように、グリーン社会の実現に向けた対応の要請に応えつつ、処分費等の管理コストの削減を図るためには、園内発生材の循環利用の取組を進めていくことが重要。
- 一方で、現在、各機関において園内発生材について適切な処分がなされ、一部では循環利用の取組も実施されているものの、十分に展開されている状況とはいえない。
- そのため、今後、循環利用を進めるためには、まずは現在の園内発生材と既存の利活用の取組を有機的に繋げていくこと(マッチング)が考えられる。
- また、より一層の循環利用の促進を図るには、利活用に関する多様な可能性を検討することも重要であるとともに、循環利用の仕組みとして構築するためにモデル的に取り組むことも有効と考えられる。その際、大量、継続的、複数機関で共通であるという特徴をもつ植物発生材を起点に取り組むことも考えられる。



＜論点①＞ 整理した園内発生材の状況及び既存の循環利用の取組、もしくはその他の利活用に関する知見を踏まえ、園内発生材の新たな循環利用の可能性は考えられないか。（他機関の植物発生材をまとめて堆肥化、他機関による羊毛のフェルト制作等）

＜論点②＞ 植物発生材を対象として、その利活用に関する提案を園内外に広く募った上で、循環利用を試行的に実施する取組を進めるのはどうか。また、その試行的取組を進めるにあたり、留意・検討すべき観点はどのようなものがあるか。

